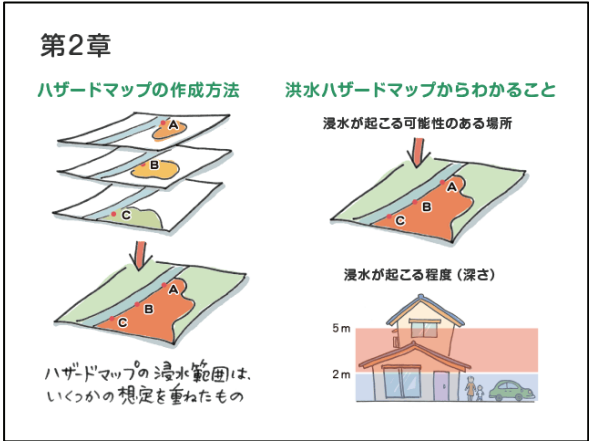


洪水ハザードマップの活用方法

洪水ハザードマップが教えてくれるのは「水に浸かる範囲と最大の深さ」。
スムーズな避難を促すための地図なのです。



洪水ハザードマップの作成方法

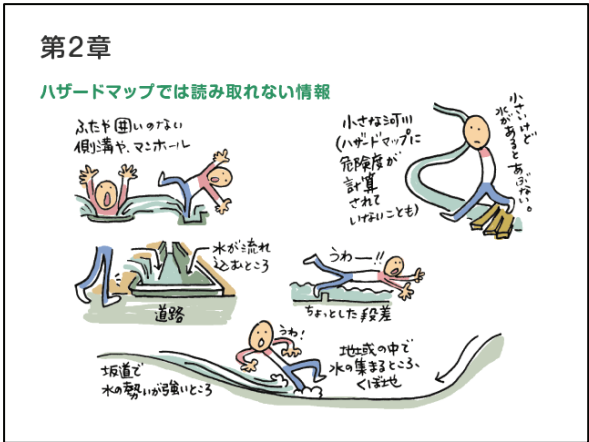
洪水ハザードマップは、いくつかの浸水パターンを重ね合わせて作成される。

必ずしもハザードマップのとおり浸水が起こるとは限らない。

洪水ハザードマップからわかること

洪水ハザードマップが示しているのは、①浸水が起こる可能性のある場所、②浸水の程度。

ハザードマップを基に、最寄りの避難場所を知り、そこまでの経路を考えることができる。



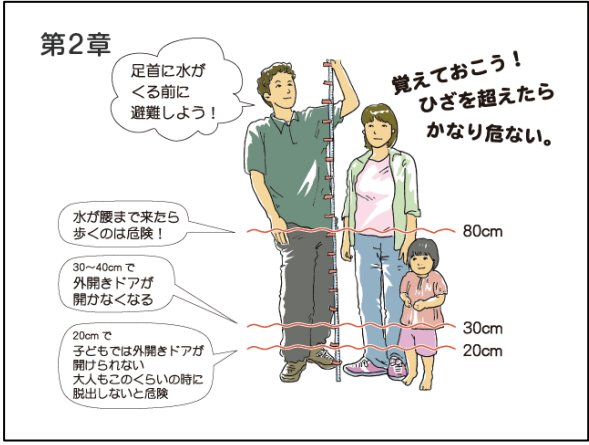
洪水ハザードマップからはわからないこと

洪水ハザードマップからは読み取れない危険として、次のような点がある。

- ・ 道路わきの排水溝や段差の有無
- ・ くぼ地や低地
- ・ 雨水が流れ込むところ
- ・ 小さな川（普段は水量が少ない河川）

等

MEMO



洪水が起きた時の避難のタイミング

大前提として、「水に深く浸かる地域ほど、早めの避難を始める」ことが重要。

避難を開始する際の目安として、次のことを知っておくとよい。

- ① 浸水が20cmに達したら
⇒大人であっても避難を始めないと危険。
- ② 浸水が30~40cmに達したら
⇒水圧で外開きドアが開かなくなることも。
- ③ 腰まで浸水したら
⇒歩くことすら危険。



MEMO